

科目名		授業形態	担当教員名	
病理学		講義	松崎 敏幸	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
60 時間（2 単位）		30 回	3 年次	前期
授業の目的・概要				
疾病をその成り立ち方（本質）から幾つかの категория に分類し、人間の生理機能との関連において病気の本質を学ぶとともに、疾病相互の関係について理解する。				
授業の到達目標				
各臓器の生理学的、解剖学的特質との関連から疾病を述べる。総論で学んだことを“縦系”、各論を“横系”として総合的に疾病を列挙する。				
授業計画				
回	内容			
1	ガイダンス、病理学の歴史、細胞について		16	(各論) 内分泌系①ホルモン
2	(総論) 病因と再生医療、退行性病変		17	(各論) 内分泌系②疾患
3	(総論) 修復と再生、進行性病変		18	(各論) 造血系①赤血球球形
4	(総論) 循環障害、炎症		19	(各論) 造血系②白血球球形
5	(総論) 炎症（急性、慢性、特異性）		20	(各論) 泌尿器系
6	(総論) 感染症について		21	(各論) 生殖器系①男性生殖器系
7	(総論) 免疫及び腫瘍マーカー		22	(各論) 生殖器系②婦人科系
8	(総論) 先天性異常		23	(各論) 感覚器（眼科、耳鼻科）
9	(総論) 腫瘍（病期、分類含む）		24	(各論) 運動器系①骨、軟骨
10	(総論) 代謝障害		25	(各論) 運動器系②関節～軟部組織
11	(総論) 老化		26	(各論) 皮膚科病理①組織構造
12	(各論) 循環器		27	(各論) 皮膚科病理②疾患
13	(各論) 呼吸器/中間試験		28	(各論) 小児病理
14	(各論) 上部消化器（口腔～胃）		29	(各論) 脳、神経系
15	(各論) 下部消化器（腸～肝、腹膜）		30	(各論) 病理組織診断、細胞診診断
成績の評価法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	50%	(各論)		
レポート				
小テスト				
平常点				
その他	50%	(総論) 中間試験		
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
シンプル病理学 改訂第7版	笹野 公伸、他		南江堂	
自由記載	講義資料を配布する。			
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
わかりやすい病理学 改訂第6版	岩田 隆、他		南江堂	
カラーで学べる病理学 改訂第4版	渡辺 照男		ヌーヴェルヒロカワ	
自由記載				
備考				
将来、医療現場に於いて、CPC（病理・臨床カンファレンス）などで病因、予防、治療、及び予後など医療の重要な役割に対処出来る為にも、病理学的基礎知識を習得し、医学の進歩に貢献できる医療人になれる様、講義の目的とした。				